



三陸津波の歴史

再び岩手県大槌町へ⑤

現地でのボランティア活動は午前九時に始まり、午後三時まで。このため朝食は七時

おにぎり一個とたくあ

る。ボランティア活動終了後、午後五時半からベースに宿泊している全ボランティアが集い、その日の活動の感想を分かち合い、夕食



昭和三陸津波の碑とボランティアの小学生

は六時から。これが一日のスケジュールだ。我々のように神父を团长とするクリスマスチャンの団体は朝七時からベース二階のチャペルでミサがあり、一般ボランティアも自由に参加できる。

活動の分かち合いの時、長崎からお父さんと一緒に来ている小学生の男の子がいることを知る。大槌ベースは長崎教会管区の運営で、信徒でない親子も長崎のどこかでこのベースを知ったのだから。

一日の活動を終え、分かち合いまでの時間、三階の自分たちの部屋に戻る。妻は疲れたのだから、ベッドに横になるとすぐ寝てしまった。一人でぼんやりと窓外の津波に

よって荒野のようになった風景を見ていると、ベースから百メートル離れていない所で長崎から来た親子が写真を撮っている。何か石碑のようなものがある。

「昭和八年三月三日 昭和三陸津波」の石碑があった。前回来た時には全く気づかなかった。

三陸沿岸は何回か津波に襲われたことは知っていたが、こんなに近くに石碑があったことに驚く。その横には「南妙法蓮華経」の南の字がない石碑が倒れ



震災から2年、まだ倒れたままの石碑



今回建てられた木碑

の地震に伴う津波が七回あったことが地質学調査でわかってい

ある被災者の方が「津波のことはよく聞か

ついているだけでも今回を含めて五回もある。

- 一、一六一一年十二月、慶長三陸津波。
- 二、一八九六年六月、明治三陸津波。
- 三、一九三三年三月、石碑があった昭和三陸津波。
- 四、一九六〇年五月、チリ地震津波。
- 五、二〇一一年三月、今回の東日本大震災の平成三陸津波。

たままになっている。昭和三陸津波の碑には次のようにあった。

- 一、地震があつたら津波に用心せよ。
- 二、津波があつたら高い所に逃げよ。
- 三、危険地帯には住居をするな。（原文のまま）

昭和津波では、溺死者六十一人、倒壊家屋六百二十二戸、浸水六十七町歩余とある。今から八十年前の津波の警告は今回、どのくらい生かされたのだろうか。

自宅に帰り、三陸津波について調べてみた。記録がきちんと残

も過去三千五百年間にマゲニチュード9前後

岩手の特産品の中で養殖わかめとアワビは日本一の生産量。海の産物で生きる人に山の上に住めと言っても無理な話だと、今はそのように静かな海を見ながら思った。道路脇の今回建てられた木碑が生かされるようにと祈らずにはおれなかつた。